

事業の背景・目的

・実績報告書（別紙 9－3）を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載（300文字以内）
福津市では、平成28年度に第2次福津市環境基本計画、生物多様性ふくつプランが策定され、環境保全活動を行う多様な主体の共働による生物多様性保全及び生態系ネットワークの構築に向けた取り組みが行われている。今後は点在する重要な自然環境について、生態学的なデータに基づいた保全活動を行い、主体間の情報共有を行うことでそれぞれの自然環境において生態系ネットワークの拠点としての質を高めていく必要がある。そこで本事業では、生態系ネットワークのコアエリアである自然環境において生物の生息・生育状況を評価し、ふくつ環境トラストの組織間の繋がりを活かして地域固有の生物相に応じた取り組みを実践することを目的とした。

事業の内容

・実績報告書（別紙 9－3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業①福津市の生物の生育・生息状況の調査及びモニタリング

里山、干潟、海・河川、海岸マツ林において、鳥類やカブトガニの生息状況やダルマガクなどの希少な植物の生育状況について生態学的調査を行った。また、ドローンを用いて生物の生息・生育環境を空撮した。

事業②生物の生育・生息環境の保全

里山では、地域住民と共働して森林再生活動を行い、管理放棄によって生物多様性を低下させているモウソウチクやマテバシイの間伐を行った。海岸マツ林では、保全活動を昨年度より継続して実施し、保全活動を行う範囲を拡大した。

事業③多主体共働の環境保全・生物多様性保全の仕組みづくり

ふくつ環境シンポジウムを2度開催し、国内外での先進的な事例について知る機会を幅広い世代の市民や市民団体に提供した。また、多主体共働の環境保全・生物多様性保全の仕組みについて意見交換を行った。

得られた成果

・実績報告書（別紙 9－3）を基に、・事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）
事業で対象とする自然環境において、生態学的知見に基づいたデータの蓄積を行った。ふくつ環境シンポジウムでは、福津市の自然環境の現状と課題、今後の展望についてふくつ環境トラストのメンバーで情報共有を行い、幅広い世代の市民が生物多様性や持続可能なまちづくりについて学び考える機会を提供した。また、福津市内で、生物多様性ふくつプランの実践的な活動に取り組む団体によって環境の質が向上しており、今後も継続して活動を行う。来年度は、特に干潟の土砂の堆積状況について、大学・行政・民間企業・高校の共働で干潟の微地形を調査する。土砂の堆積状況を評価することによって、土砂・水の供給源を確保すると共にカブトガニ等の生物の生息適地の拡大や土砂流入による栄養分の確保について検討する。また、ふくつ環境トラストのつながりを活用して情報共有を行い、調査の実施やデータ提供依頼など、共働で事業を進めていく仕組みづくりに取り組む。